第5回　総合計画審議会（共生分科会）議事要旨

日時　平成 22 年５月 20 日（木）午後３時 00 分～５時 00 分
場所　横須賀市役所３階特別会議室
出席委員　吉川智教委員（座長）、松本暢子委員（副座長）、原田昭一委員、
　　木村武志委員、木村忠昭委員、小林康彦委員、髙山英夫委員
　　（敬称略、以上７名）
事務局　横須賀市都市政策研究所　福本政策担当課長、小澤主査、檜山主任、山中主任
傍聴者　市民１名
議事内容
　１．報告事項
　２．審議事項
　３．その他

１．報告事項
（１）第４回総合計画審議会（共生分科会）の議事要旨について
（事務局）
－資料１説明

（２）第４回総合計画審議会意見について
（事務局）
－資料２説明
（p. 4 の No. 46 に関し、前回審議会であった「従業者数ベスト 10 程度の市内企業を把握しておくべき」との吉川座長からの指摘に基づき、事務局から確認状況を報告。）

（吉川座長）
・　関東化成工業は、確かメッキの工場だったと思いますが。

（事務局）
・　はい、そうです。
・　次が、シンジーテック横須賀事業場で、400 人弱です。

（吉川座長）
・　その辺で結構です。わかりました。私は、日産自動車、住友重機械、ビクター、関東化成工業などは訪問したことがありますから、約半数は行ったことがあります。
・　主な事業者名を教えていただくと、横須賀がどういう地域か大変わかりやすい。委員のみなさんは、ご存知かもしれませんが、改めて（名前を）確認することは大切です。
・　私は、自分たちの感覚でわからないことは議論をしても意味がないということを申し上げたかったのです。たとえば、事務局は、これらの企業を訪問したことはありますか。行かなくてもよいですが、何をやっている会社なのか、自分で理解しておくこと

が大切です。

・ 今回は事業所でしたが、経済・産業系に限らず、生活分野など、その他の施設も考え方は同じです。その施設を訪れるなど、感覚的に理解することが必要なのです。
・ 事務局にとっては、今回の様に改めて調べてみることもよかったのではないでしょうか。どうもありがとうございました。

（３）横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会（第１回～第３回）の意見およびその対応について

（事務局）

－資料６説明

（４）基本計画素案に寄せられた市民意見について

（事務局）

－資料７説明

（５）横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会（平成 22 年５月 13 日・14 日開催）について

（事務局）

－資料８説明

（吉川座長）

・ ご質問があれば、お願いします。
・ 資料６～資料８は本日渡されたものですので、すぐにはご意見が難しいでしょうから、本日の議論の約２時間弱の中でお目通しいただきながら議論したいと思います。

２．審議事項

（事務局）

・ 審議資料等についての説明。

（吉川座長）

・ 資料３に関して、2-(3)-③の「起業の支援」の記載ですが、前の方がいいのではないでしょうか。

（事務局）

・ 新規事業者は、事業者としてはじめて事業を起こす方であり、その方々を対象に支援を行うという名称としておりましたが、今回、新規事業者を外しました。
・ つまり、既存事業者として何か事業を行っていた方が起業される場合も含めて、支援対象を広くするということで名称変更をしたものです。

（吉川座長）
・　そういった意味に捉えていただければよいと思いますが、わかりにくいですね。ただし、小柱にも似たようなことも書いてあるので（このままで）よいとは思います。

（事務局）
－資料４読み上げ

（吉川座長）
・　ご説明いただいた内容を議論すればよいということですね。

（木村（武）委員）
・　今の説明の中で、2-(5)-①「拠点市街地の都市機能の強化」に、新港ふ頭への集約とあります。私も、一昨年頃から移転の話を聞くのですが、行政としてはこの方向で進めていると理解してよいでしょうか。

（事務局）
・　はい。広報などに掲載させていただきましたが、このような方向で進めています。

（木村（武）委員）
・　④の「歩いて暮らせるまちづくりの推進」に関して、前回・前々回で議論した時に、鉄道沿線や主要な街周辺を開発し、歩いて暮らせる都市環境をつくるとのご説明がありました。鉄道駅のある横須賀中央地区などは栄えると思いますが、鉄道がない地区はどうなるのでしょうか。

（事務局）
・　集約型都市構造につきましては、2010 年４月にスタートした都市計画マスタープランの中で、今後の長期のまちづくりの方向性としてお示ししている考え方です。
・　人口減少が進む中で、これまで駅などの中心市街地からスプロールしていたものを集約化しようというものです。
・　たとえば、西地区など鉄道がないところも、商業施設が集積している地域を拠点として、集約化する方向で考えております。

（木村（武）委員）
・　そうしますと、中心市街地に偏っていくという意味ではないのですね。

（事務局）
・　はい。このほかに、郊外団地などについては、この中での生活機能をどうするかという問題が別途あると考えております。

（松本副座長）

- 「住環境の維持保全」について、資料に記載いただいている話はわかるのですが、たとえば、今お話があった郊外団地の問題など、住環境の保全としてここに書いておかなくてはいけないようなものは他にないのでしょうか。
- 施策アが最も積極的に取り組むもので、施策イ以降に、それ以外の項目として従来から取り組んでいるものが書かれています。ここでカバーされる内容もあると思いますが、それ以外にも、住環境をどうするのかなど、書くべき事があれば書いておくとよいと思いました。

（事務局）

- 横須賀の郊外団地は、昭和 40～50 年頃に開発され、高齢化の問題がございます。住み替えや高齢者の買い物、また、拠点までどうやって出かければよいのかという市内の公共交通の問題もあると思います。
- 特に、横須賀は谷戸のエリアの問題がありますので、施策アを中心に取組みを記載しました。そのほか、買い物については、2-(5)-②「魅力ある商業集積の促進」の施策イで記載しました。
- 公共交通につきましては、大柱１「交流が広がるまち」の(2)-③「公共交通の機能強化」の施策イにおいて、バス交通の利便性の向上などを関係機関や地域と協議して進めていくと示しました。
- このように、施策はいろいろなところに分かれておりますが、これらを集めると郊外も含めた住環境の対策はカバーしております。

（松本副座長）

- 施策アにおいて谷戸が突出して示されております。市として、力をいれて取り組むという意思表示でしょうか。

（事務局）

- はい。郊外団地は取組みにより住み替えなどが出来ると思うのですが、谷戸はそのような対応は難しく、やはり便利なところに来ていただく考え方もあろうかと思います。実際谷戸には空き家が多くなっておりまして、ここでは空き家の問題をどう解決していくかを記載しています。

（吉川座長）

- 昭和 40～50 年代の団地は、同じ方が住み続ければ 70-80 歳になっていますね。射的距離が約 10 年の計画期間内で、高齢者がそれほど移転をすることもないでしょう。この問題を計画にどう取り込むかは非常に重要かと思いま。いかがでしょうか。

（事務局）

- 昨年度、これらの地域を対象に、約 1,000 人にアンケート調査を行いました。結果をみますと、平均年齢は 65 歳前後で、皆さん頑張っておられる状況でした。

・ しかし、今後 10 年間に、核家族から２人・１人世帯へと家族構成が変わり、問題がでてくる時期に入ると思います。計画期間内には、問題が顕著になることはないと思われますが、検討を進めておく必要はあると考えています。
・ １年、２年でどうするかを決めるのは難しいですが、考えていかなければならない問題です。

（吉川座長）
・ 住み替えがきちんとできて、横須賀に若い人の人口流入がふえればよいですが、そうでなければ、コミュニティとして大きな問題になります。横須賀は、若い方が増えておりません。また、企業誘致もあまり成功しておらず産業も起こせていませんし、農漁業もあまり活発でありません。こうした状況では、人も流入しません。
・ こうした中で、高齢者をどう介護していくかという点は非常に重要です。コミュニティバスなどがどんどん走ればよいと思いますが、それほど整備はできないでしょう。高齢者に対してどのようなサービスを行うかは極めて重要ですし、今からきちんと考えておかなければ、費用ばかりかかるし、サービスの効率も下がってしまいます。

（木村（忠）委員）
・ 郊外団地では、若い方が皆東京に出て行きお年寄りだけが残るという、まさに先生のご心配されているとおりの状態です。喫緊の対応が必要と思います。
・ ただ、一度住めば転居したくないという気持ちを持っている方も多いですし、その辺が難しいかと思います。

（事務局）
・ 去年行ったアンケート調査によりますと、みなさん頑張って生活しておられ、また、そこに住み続けたいとの意向がございました。
・ 先日、本会議において、なぜ市民が転出するかという資料をお出ししましたが、結婚を期に親元から離れ団地を出ていくことが多くなっております。団地も住環境はよいのですから、出ていかない工夫が必要と思います。雇用の問題もあると思いますが、例えば横浜などで働く方でも良好な住環境を維持していくことは有効と思われます。

（吉川座長）
・ 若い人の転入があれば問題は小さくなりますが、いずれにしましても、昭和 40～50 年代に出来た団地にお年寄りが住んでおり、全ての方が住み替えることはなく、残っておられる方もいます。この方々が住み替えやすいようにすることは大切です。
・ たとえば、この地域に産業が育てば、団地は買い換え需要で、その家が高く売れることになりますし、良質の老人ホームに入ることができるかもしれません。つまり、この地域が活性化することがお年寄りにとってもメリットになるのです。
・ また、住み続ける方々に対しては、あまり費用のかからない形で必要なサービスを提供していくことが必要です。

（木村（忠）委員）

・ 若い方々は新築を求め、高齢者の方々は中古でも良いという希望もあるようです。

（吉川座長）

・ 農業や水産業に関連し、若い方々が農業関係で起業することを促進しなくてはならないと思います。高齢化が進展すれば、20 年後に農水産業がなくなるかもしれません。

（原田委員）

・ 漁業については、(2)-③「豊かな農水産物の供給を支える環境づくり」に記載されていますが、種苗法流など漁場づくりなどが重要になると思います。
・ 安全で安心な食料を供給するためには、資源管理が重要です。また、限られた資源を有効に使うためには、流通（価格）の問題が大きいと思います。現在は、魚が獲れても獲れなくても安いという状態であり、漁業そのものが面白くとも、収入の安定が伴わなければ、なり手がいません。
・ この点については、適正な価格での取引が重要となると思われますが、行政では適正な価格に関する調査をしているのでしょうか。

（事務局）

・ 正確なお答えはできないのですが、おそらく、適正な価格についての調査は行っていないものと思われます。
・ 物がどのような値段で流通するかという点に関しては、行政が出来ることは限られていると思います。行政として出来ることとして、横須賀の農水産物にブランド力をつけ、商品価値を高めるような支援の施策はあるかと思います。価格を誘導するような支援策は難しいと思います。

（吉川委員）

・ 私も、一般論としてそう思います。農業面では、上勝町の農業ベンチャーである「いろどり」も参考になると思います。行ってみたり、話を聞いてみたりしなければ、方向転換はなかなか難しいと思います。
・ 高齢化社会におけるイノベーションというものもあります。65 歳と 80 歳では消費パターンが変わりますから、それぞれが必要としている物を作ったり、サービスを供給するために、新しいことが生まれます。
・ ベンチャー企業がサービスを提供することもありえます。イノベーションは社会に対する新しい価値創造と定義しますので、技術と直接結びついていなくともよいのです。

（木村（忠）委員）

・ 農業も漁業も国家として取り組まなければ難しい部分はあると思います。現在の食糧自給率は 40％ですから、平均的な 1 日あたりのエネルギー消費量 2,500kcal のうち、約 1,000kcal を国産で摂取することになります。

- しかし、この一方で、一時的に国内で飼育されれば国産と認められるような制度があり、本当の意味で国産ではなくなってしまっています。
- 地産地消に向けて、市場関係者の方にも、もっと、地場で育て、収穫した農水産物を積極的に取り扱ってはどうかとお話したことがありますが、なかなか難しいようです。

（吉川座長）
- ファーマーズマーケットは市内に整備されていますか。

（髙山委員）
- 来年の６月にオープンします。また、市も、平成町に農産物の販売場の整備を進めています。そちらの立ち上げは１年ほど遅れると聞いてはおりますが、完成すれば、直接農産物を販売できるファーマーズマーケットが、西部地区と東部地区に出来ることになります。
- このほか、それぞれ農家の人たちが固有のルートで地域の販売店として売るルートもあります。

（木村（忠）委員）
- 他都市では、ファーマーズマーケットと地元の小売店の方々との調整でもめてしまっている例があると聞きます。
- そもそも、北欧やニュージーランドなどの第一次産業は、労働時間が短く、稼ぎも上げていると聞きますが、日本では、漁業の従業者は労働時間が長く、稼ぎも多くはありません。業に携わる人が報われる仕組みをつくってほしいと思います。ただし、これは、市の政策だけでは難しいかもしれません。
- 例えば、農業の貸付などについても、非常に複雑な仕組みとなってしまっていますから、イギリスのように「あなたはこれだけ生産すれば買い取ります」といったような、わかりやすい仕組みが必要かと思います。

（原田委員）
- 漁場ごとの生産量はある程度計算できます。「この漁場はこのくらいの生産量が適当」と設定し、漁業が出来れば安定供給につながります。そのためには、適正な価格設定も必要だと思います。現在は、獲れる魚はすべて獲るという状態です。

（木村（忠）委員）
- 現在、わが国は、食料輸入に５兆円、燃料輸入に 13 兆円を使っています。これを稼いでいる産業は、自動車と、電気と、鉄鋼です。しかし、自動車産業は現在非常に厳しい状況におかれておりますし、輸入ができなくなる日がくるかもしれません。

（木村（武）委員）
- 三浦では、松輪サバが有名と聞いております。また、松輪のアジも美味しく、銀座の料亭では 100 食限定のフライが瞬く間に売れると聞きました。

・　何かピーアールなどをやっているのでしょうか。

（原田委員）
・　松輪は、漁場が非常に良く、相模湾よりもサバに油が乗り美味しいのです。漁場が良いという特徴が影響しています。
・　また、松輪はイカとサバの１本釣りも有名で、優秀な魚が多い地域です。アジも獲れますが、関アジほど多くはありません。

（吉川座長）
・　こうした素晴らしい魚に、ブランド名をつけて販売することも一つの方法です。それでベンチャーを起こす方々もいます。
・　農業でこれを行ったのが上勝町です。200 件の農家で 30 億円の売上げといいますから、大変な金額です。

（松本副座長）
・　(1)-②「自然環境の積極的な創出」では、施策のア～ウがすべて緑化の話です。自然環境というタイトルと違和感があり、語句の整理が必要かと思いました。
・　緑化は景観ではなくこちらに記載するのですよね。

（事務局）
・　はい。

（松本副座長）
・　身近な緑化についても書いていただければと思いますが、お任せします。

（小林委員）
・　高齢化で、まちづくりや住宅について、マイナス面を心配しています。たとえば、一人暮らしで亡くなった方のゴミの片づけなど、管理を引き継ぐような仕組みがありません。これでは、家が廃墟として残ってしまいかねません。
・　特に共同住宅の場合、人が住まなくなりますと、劣化も激しいのです。住まなくなったところの管理システムが必要かと思います。国全体の問題かもしれませんが地域としても取り組む必要があると思います。

（吉川座長）
・　ご指摘のとおりです。実際は地域で取り組むことになる問題ですから、仕組みが必要です。すべてを行政で行うことは難しいと思いますが、チェックできる仕組みがあれば、体調が悪い方を見つけることもできます。

（事務局）
・　小林委員のご指摘は、集合住宅と戸建てのそれぞれについてのご指摘でしょうか。

（小林委員）

- 両方です。亡くなった方が残された物をどうするのかということまで踏み込んだシステムがないと思います。
- (5)-③「住環境の維持・保全」に関しては、空き家となった後の問題を検討することが必要です。

（事務局）

- 自治会などでは、空き家の持ち主がわかっている場合に、町内会が所有者と連絡を取り、草刈りを請け負ったり見回りを行うなど、しっかりシステム化しているところもあると聞いております。
- これを、他地区にも紹介し、市全体に仕組みが取り入れられれば良いと思います。具体策として、この柱の中でこういった案を検討することになると思います。

（木村（武）委員）

- 基地問題は非常にデリケートです。私は横須賀にずっと住んでいて違和感がないのですが、就労者が 5,000 人近くいる状態で、これを一気に無くすことは、市としても難しいと思います。計画での表現方法は極めて難しいことは理解しますが、行政としては、やはり集約・統合の方向性で考えているのでしょうか。

（事務局）

- 基本的な方針として、まず、総合計画などに書くことで市の姿勢を示しております。
- 自衛隊の施設に関連した取組みとしまして、大矢部の弾薬庫は、まち中で市民にとって大変危険ですので、自衛隊との協約内で、移転する協定が結ばれました。長浦の自衛隊施設へ集約する方向で進んでおります。このような例はたくさんお示しできませんが、少しずつ、その方向で進んでいます。

（吉川座長）

- 先ほどのご紹介にあったように、米軍関係の施設は、市内でも、従業者数が一番多いのですよね。
- どうソフトランディングするかという点を議論する上では、先ほどのようにデータを踏まえることが大切です。雇用が多いのだから一気に無くすことはできないといったように、現実的な議論ができます。

（髙山委員）

- 米軍基地の問題は神経を使わなくてはいけないと思いますが、横須賀にずっと住んできた者にとっては、米軍基地があっての横須賀です。基地と共存できる横須賀という書き方では、問題になりますか。
- 基地が必要かという点は政治の話かもしれませんが、書きぶりとして、基地があって横須賀がある、という書き方も良いのではないかと思いました。ただし、書きぶりに神経をとがらせる方もいらっしゃるでしょうし、感触がよくわからなかったので質問

させていただきました。

（事務局）
・ 長期的には、米軍基地は返還、自衛隊は集約・統合の方針です。
・ ただし、現時点では、基地は存在しておりますし、10 年という長期の計画期間においても、前向きに利用しようと考えております。たとえば、にぎわいづくりや防犯などは考えられます。

（木村（武）委員）
・ お示しいただいたアンケートにおいても、横須賀市民がシンボルとして感じているものの第２位でもあるわけです。政策とは別物の感情もあると思います。

（吉川座長）
・ 基地がないほうが良いこと明らかですが、次善の策はあります。ただし、基地の問題は、市民が決定できません。この状況での対応としては、今の表現で私は良いと思います。
・ そろそろお時間ですので大柱２については終わらせ、月曜日お会いした時にお気づきの点があれば追加で議論することといたしましょう。

（事務局）
―参考資料の説明

４．その他
（事務局）
・ 次回は 24 日を予定しております。資料４・大柱５(p. 15～20)をご議論いただければと思います。
・ また、本日のご議論の追加的な内容についても、次回ご議論いただければと思います。

（吉川座長）
・ 24 日に向け、大柱５について、事務局から、本日、少し説明をいただければ、委員の皆さんが頭に入れておくことができるかと思います。
・ 急ですみませんが、事務局から、簡単でかまいませんので、御説明いただけますか。

（事務局）
－資料４の大柱５について、概略説明

（吉川座長）
・ ありがとうございました。本日は効率よく議論ができ、事務局のご説明を通じて、予習もできました。

（事務局）

- 次回、５月 24 日につきまして、もしご欠席される委員がいらっしゃいましたら、ご意見を事前にお願いできればと思います。いらっしゃらないようでしたら、24 日当日、よろしくお願いいたします。
- 次回の使用資料は本日と同じものとなりますので、お持ちいただくようお願いいたします。
- ７月以降の審議会の日程調整につきましては、近々、座長・副座長と日程調整をさせていただいたのち、委員のみなさまに調整のお願いをさせていただく予定です。
- また８月に座長・副座長会議にご出席いただきます。
- 本日の記録は後日みなさまにお送りしてご確認をいただきます。

（以上）